

表4. 2005年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算(案)(2005.1.1-2005.12.31)

収入の部(円)		支出の部(円)	
受取利息	800	論文賞用雑費	2,000
貸付返済	0		
小計	800	小計	2,000
前年度繰越金	2,398,844	次年度繰越金	2,397,644
合計	2,399,644	合計	2,399,644

表5. 2005年度研究奨励賞事業基金特別会計予算(案)(2005.1.1-2005.12.31)

収入の部(円)		支出の部(円)	
寄付金	2,200,000	奨励賞賞金	100,000
受取利息	500		
小計	2,200,500	小計	100,000
前年度繰越金	0	次年度繰越金	2,100,500
合計	2,200,500	合計	2,200,500

学会・シンポジウム情報

日本海藻協会主催, 日本藻類学会・日本応用藻類学研究会共催

2005 秋季藻類シンポジウムのご案内

10:00~12:00 「我が社の紹介と戦略」(日本海藻協会会員会社の報告)(予定)

日時: 2005年11月30日(水曜日)

場所: 学士会館(東京都千代田区神田錦町3-38)

13:00~17:00 シンポジウム テーマ「海藻と健康」(予定)

17:30~20:00 交流会

日本藻類学会・ナショナルバイオリソースプロジェクト「藻類」主催

2005 秋季藻類シンポジウムのご案内

「藻類ゲノム: 生物資源・研究資源」

“ゲノム”は今や日常的な言葉となりつつあります。そこから得られる情報は、様々な研究分野での利用が期待されます。本シンポジウムでは、藻類のゲノム研究が今どこまで進展しているのか、またその情報をどのように利用できるのかなどについて、現在最先端でご活躍の方々にお話いただきます。ホットな話題を、一般の方や“ゲノム”をキーワードにしている学生や研究者の方々にも理解できる平易な言葉でお話しいただく予定です。是非ご来聴ください。演者および講演内容(予定)は以下のとおりです。

渡邊 信(国立環境研究所): シンポジウムの主旨説明および藻類資源について

田畑哲之(かずさDNA研究所): シアノバクテリアのゲノムについて

白井 誠(茨城大学) アオコ毒遺伝子について

松崎素道(東京大学) 単細胞紅藻シアニディオシズンゲノムについて

J. Mark Cock(フランス, Station Biologique de Roscoff) シオミドロゲノムについて

(順不同)

日時: 2005年10月15日(土) 午後1時半より5時

場所: 東京大学理学部2号館講堂(東京メトロ丸の内線本郷三丁目下車徒歩約5分, 東大赤門を入ったらすぐ右手にお進みください。)

参加費: 無料

懇親会: 一般3000円, 学生1000円

当日参加も歓迎しますが、できるだけ事前登録(10月11日までにファクスまたは電子メールで。懇親会参加の有無も。)をお願いします。

【参加登録および問合せ先】

ナショナルバイオリソースプロジェクト「藻類」事務局:

笠井文絵(国立環境研究所生物圏環境研究領域)

ファクス: 029-850-2587

電子メール: kasaif@nies.go.jp

2005年度「藻類談話会」のお知らせ

「藻類談話会」は藻類を研究材料とする幅広い分野の研究者の集まりで、西日本を中心に講演会や研究交流を行っています。今年度は以下の講演を企画しています。ふるってご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時：2005年11月12日（土）13：00-17：00

場所：京都大学総合人間学部棟1102室（京都市左京区吉田二本松町）

会場への交通：京都市営バス31系統、65系統、201系統、206系統「京大正門前」から東へ徒歩約5分。京阪電車「出町柳」駅から東へ徒歩約20分。京都大学ホームページ（<http://www.kyoto-u.ac.jp/top.htm>）のアクセス・マップ、吉田キャンパス～吉田南構内にも掲載されています。

講演予定（敬称略）

杉野伸義（(株)環境総合テクノス）：兵庫県安室川における河川環境再生と淡水紅藻チスジノリの保全について

山岸幸正（福山大・生命工学部）：紅藻スサビノリの環境適応機構について

松尾嘉英（(株)海洋バイオテクノロジー研究所）：海洋性着生細菌から分離した大型緑藻類の新規葉状体形成因子Thallusinについて

西井一郎（理化学研究所）：ボルボックスの形態形成運動の分子機構

三室 守（京都大院・地球環境学堂，人間・環境学研究科（両任））：藻類の多様なアンテナ系の原理を探る

参加費：500円（通信費など）

談話会終了後、学内の生協吉田食堂で懇親会が予定されています（会費：一般3000円，学生1500円）。

談話会および懇親会の参加希望者は10月31日（月）までに電子メールかファックスで下記の宛先へお申し込みください（当日参加も可）。また最新情報は下記ホームページに適宜、掲示しますのでご覧ください。

参加申込・問合せ

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

京都大学大学院 人間・環境学研究科 相関環境学専攻

幡野 恭子

TEL：075-753-6854

FAX：075-753-6694

e-mail：kyokohat@bioh.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

2005年度藻類談話会ホームページ：<http://biotech.nikkeibp.co.jp/100HP/>より「バイオ・基礎医学関係者の皆のホームページ」→「学会・研究会」の項目をお選びください。

書評・新刊紹介

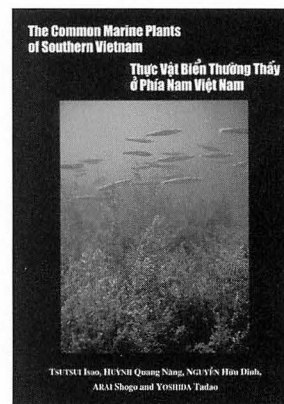
TSUTSUI Isao, Huynh Quang Nang, Nguyen Huu Dinh, ARAI Shogo and YOSHIDA Tadao: The Common Marine Plants of Southern Vietnam (南ベトナムの海産植物図鑑)

日本海藻協会発行（ISBN：4-89341-369-4），A5版，上製，カラー印刷，267頁，送料別1800円（15USD）

購入申込み：日本海藻協会事務局（mohno@cc.kochi-u.ac.jp）

ファースト・オーサーの筒井功博士は、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科（博士課程）に在籍し、ベトナムに5年間滞在して、Huynh Quang Nang氏と Nguyen Huu Dinh氏の助言により海藻の生物学とそれを取り巻く漁村社会について総合的な研究を行った。その間に多くの海藻の生態写真を撮影した。学位取得後、経団連の研究助成を受けて、新井章吾氏とベトナム海藻生態調査を行いまとめたのが、この海藻生態図鑑である。種の記載には、吉田忠生先生が助言し、特に、英文記載の校閲を行った。この図鑑の刊行には、京都大学の研究成果刊行助成を受けたが、配布のみという制約があったので、2版増刷を日本海藻協会に引き受けて、希望者には有料配布をすることになった。

この図鑑は、ベトナムの人々に海藻の知識を普及させたいと言う目的から、記載はベトナム語と英語で記載されている。掲載されている種数は183種（緑藻類52種、褐藻類37種、紅藻類89種、海草類5種）である。記載種は、珍種を除き広くみられ種が厳選されているので、東南アジアにみられる多くの海藻は、この図鑑に記載されていると言える。筒井氏は、この本の紹介文のなかで、掲載された写真は一般の人が使う水



中カメラを用い、全て現場で撮ったものであることを強調しているが、1葉、1葉がすばらしい生態写真である。種査定のために海藻部位の写真や顕微鏡写真が付け加えられているので、それぞれの種の査定にはどこに注意をすべきが理解できる。この記載は、日本産の海藻の査定の時にも非常に参考になると思う。このほか、21のコラムで、ベトナムで利用されている海藻や海藻養殖などについても写真入りで書かれているので理解しやすい。執筆者の筒井氏はタイに滞在中であり、この本の購入は、日本海藻協会事務局（筆者のメールアドレス）か新井章吾氏に連絡すればできる。

（四国土建株式会社 大野正夫）